

3. (25) クリニカル・エビデンス日本語版 日経BP社 日本クリニカル・エビデンス編集委員会
4. (58) Monograph of therapeutical Guide to Herbal Medicine Complete German Commission
5. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独立国立健康栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定)
6. (101) Herbal Medicine: A Guide for Healthcare Professionals. London, UK: The Pharmaceutical Press, 1996.
7. (PMID:9569764) Anal Chem., 70: 1544-1554, 1998.
8. (PMID:11489067) J Intern Med. 2001;250(2):167-9.
9. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)
10. (PMID:16467543) N Engl J Med. 2006 Feb 9;354(6):557-66.

No.727 ノニ(ヤエヤマアオキ)

基本情報		
名称	和名:ノニ(ヤエヤマアオキ) 英名:Morinda 学名:Morinda citrifolia アカネ科[モリンダ属]	
概要	ノニはポリネシアから東南アジア、沖縄などの広い地域に自生し、5-8m程になる常緑の灌木でインディアンマルベリーとも呼ばれる。果実は緑色で、熟すと黄色になり強い臭気を出す。俗に「糖尿病によい」「血圧を下げる」「免疫力が上がる」「心臓病によい」「がんの予防によい」「美容や健康によい」などといわれているが、ヒトでの有効性に関する信頼のおけるデータは見当たらない。安全性については果実を食品として摂取する条件では安全性が示唆されているが、肝障害との関連が疑われる報告がある。月経促進薬として用いられてきたとの情報があるので妊娠中の経口摂取は避けたほうがよい。授乳中の安全性については信頼できるデータがないので使用は避けること。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	果実は「非医薬品」に区分される(30)。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	和名:ヤエヤマアオキ。熱帯から亜熱帯の広い地域に自生し、5-8m程になる常緑の灌木で、表面がゴツゴツした果実を付ける。 中鎖脂肪酸、カリウム、ビタミンC、アントラキノン類、β-システロール、カロテン、ビタミンA、リノール酸、カブロン酸、ウルソリン酸、ルチン等を含む。	
分析法	-	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マウスを用いた実験で、根の抽出物は鎮静作用、中枢鎮痛作用を示したという報告がある(PMID:1981810)。</li> <li>・マウスを用いた実験で、根の抽出物には抗うつ作用があることが示唆されている(PMID:11900676)。</li> <li>・果汁に多く含まれる多糖類は肺腫瘍モデルマウスの生存率を上昇させ、その機構として免疫機能の活性化が推定されたという報告がある(64)(PMID:10441776)。</li> </ul>	
安全性		
危険情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果実を食品として摂取するのは安全性が示唆されている。医療目的で経口摂取あるいは外用する場合、安全性が示唆されている(64)(PMID:12466051)。</li> <li>・妊娠中に経口摂取するのは危険性が示唆されている(64)。月経促進薬として用いられてきたとの情報があるので妊娠中の経口摂取は避けたほうがよい(64)(PMID:12466051)。</li> <li>・授乳中の安全性については調べた文献中に記載がない。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノニジュース摂取との関連が疑われる肝障害の症例が報告されている(PMID:16094725)(PMID:15756098)。</li> <li>・腎機能不全の人は高カリウム血症のリスクが上昇するので、果汁を摂取する場合は注意すること(64)(PMID:10676732)。</li> </ul>
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。
医薬品との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノニ果汁はカリウムを豊富に含む(64)(PMID:10676732)ので、理論上、カリウム保持性利尿薬と併用摂取すると、高カリウム血症になる可能性がある。高カリウム血症の人は利用を避けること(64)。</li> <li>・臨床検査において、尿の色調に影響を与えることがある(64)(101)。</li> <li>・他のハーブやサプリメント、食品との相互作用は知られていない(64)。</li> </ul>
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	<p>参考文献中に記載なし</p> <p>*米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)</p>
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトに対する安全性については、果実を食品として摂取する条件では安全性が示唆されているが、肝障害との関連が疑われる報告がある。月経促進薬として用いられてきたとの情報があるので妊娠中の経口摂取は避けたほうがよい。授乳中の安全性については信頼できるデータがないので使用は避けること。</li> </ul>
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトに対する有効性については、信頼できるデータが見当たらない。</li> </ul>
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (30)「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)</li> <li>2. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独/国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版2004(第一出版刊行予定))</li> <li>3. (101) Effects of Drugs on Clinical Laboratory Tests 4th ed. Washington: AACC Press, 1995.</li> <li>4. (PMID:12466051) Acta Pharmacol Sin. 2002 Dec;23(12):1127-41.</li> <li>5. (PMID:10676732) Am J Kidney Dis. 2000 Feb;35(2):310-2.</li> <li>6. (PMID:1981810) Planta Med. 1990 Oct;56(5):430-4.</li> <li>7. (PMID:10441776) Phytother Res. 1999 Aug;13(5):380-7.</li> <li>8. (PMID:16094725) World J Gastroenterol. 2005 Aug 14;11(30):4758-60.</li> <li>9. (PMID:15756098) Eur J Gastroenterol Hepatol. 2005 Apr;17(4):445-7.</li> <li>10. (PMID:11900676) Curr Gastroenterol Rep. 2002 Apr;4(2):120-7. Review.</li> </ol>	

No.194 ハゴロモカンラン(俗名)

基本情報		
名称	和名:ハゴロモカンラン(俗名) 英名:- 学名:-	
概要	ハゴロモカンランの情報については、「ケール」のところを参照して下さい。サイトはこちらです →ケールを参照。	
法規・制度	-	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	-	
分析法	-	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	-
	消化系・肝臓	-
	糖尿病・内分泌	-
	生殖・泌尿器	-
	脳・神経・感覚器	-
	免疫・がん・炎症	-
	骨・筋肉	-
	発育・成長	-
	肥満	-
	その他	-
試験管内・動物他での評価	-	
安全性		
危険情報	-	
禁忌対象者	-	
医薬品との相互作用	-	
動物他での毒性試験	-	
AHPA クラス分類および勧告	-	
総合評価		
安全性	-	
有効性	-	
Keyword	-	
参考文献		
-		

No.513 ハス(レンカ/レンコン/レンジツ/レンニク/レンヨウ)

基本情報		
名称	和名:ハス(レンカ/レンコン/レンジツ/レンニク/レンヨウ) 英名: Lotus, Sacred lotus, Padma 学名: Nelumbo nucifera GAERTN. すいれん科[ハス属]	
概要	ハスは中国やインドでは神聖な花として扱われる植物である。その根茎のレンコンは日本で馴染み深い食品のひとつであり、食用の歴史は長い。中国漢方では果実を鎮静、滋養強壮薬などとして用いる。食品素材としてのヒトでの有効性・安全性については、信頼できるデータが見当たらない。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	雄しべ、果実、根茎、種子、葉、花柄、花蕾は、「非医薬品」に区分される(30)。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	・果実の成分は未詳。種子の組成はタンパク質 16.6%、脂肪 2.0%、炭水化物 62.0%、カルシウム、鉄、リンを含む。その他ラフィノース、各種アルカロイドを含む。 ・薬用部分は葉(荷葉<カヨウ>)、雄しべ(蓮鬚<レンシュ>)、果実(蓮実<レンジツ>)、種子(蓮肉<レンニク>)。葉は必要なときにいつでも採り、巻くか、たたんで日干しにする。果実は 10~11 月に採り、殻をのぞいて種子を日干しにする。北米東部、アジアからオーストラリアなどに分布。水性の多年草。花期は 7~8 月。	
分析法	-	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	・サプリメントや健康食品等として用いた場合のハスの安全性については十分なデータがない(64)。妊娠中・授乳中の安全性については十分なデータがないため、摂取は避けたほうがよい(64)。 ・種子は経口で摂取した場合、安全性が示唆されている(64)。種子の副作用は報告されていない(64)。	
禁忌対象者	種子は便秘と胃拡張には禁忌(22)(64)。	
医薬品との相互作用	・種子と他のハーブやサプリメント、食品、医薬品との相互作用は知られていない(64)。 ・臨床検査値に対する種子の影響は知られていない(64)。	
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。	
AHPA クラス分類および勧告	・雄しべ、果托、根茎節部、葉、胚芽ークラス1(適切に使用する限り安全に摂取することができるハーブ)(22)。	

	<p>種子はクラス 2d(注釈にあるような特定の使用制限がある)ー便秘と胃膨張には禁忌(22)(64)。</p> <p>*米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA) 2d: 特定の使用制限のあるハーブ</p>
総合評価	
安全性	<p>・通常の食品として摂取する以外のヒトでの安全性については信頼できる十分なデータは見当たらない。</p> <p>・サプリメントなどとして摂取した場合の安全性については信頼できる十分なデータが見当たらない。</p> <p>・妊娠中・授乳中の安全性については信頼できる十分なデータがないのでサプリメントなどとしての摂取は避けたほうがよい。</p> <p>・種子は便秘や胃拡張のある人は禁忌である。</p>
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <p>食品素材として利用する場合のヒトでの有効性については、信頼できる十分なデータは見当たらない。</p>
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</li> <li>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添 3 (平成 16 年 3 月 31 日 薬食発第 0331009 号 厚生労働省医薬食品局長)</li> <li>(64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定)</li> </ol>	

## No.731 ハタケシメジ

基本情報		
名称	和名:ハタケシメジ 英名:Fried Chicken Mushroom 学名:Lyophyllum decastes キシメジ科[シメジ属]	
概要	ハタケシメジはホンシメジと同じキシメジ科のキノコの一つで、道端や畑、あぜ道、人里にも顔を出すことがその和名の由来となったといわれている。食感や味・風味がよいことから色々な料理に利用されている。俗に「がんによい」「血圧を下げる」「コレステロールを下げる」「糖尿病によい」などといわれている。ヒトにおける安全性・有効性については調べた文献の中に情報が見当たらない。その他、詳細については、「全ての情報を表示」を参照。	
法規・制度	医薬品と非医薬品の区分なし。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	多糖類(β グルカン)を含む。	
分析法	(1→3)-β-D-glucan、(1→6)-β-D-glucan がイオン交換クロマトグラフィー、ゲルろ過クロマトグラフィーにより分画、NMR により同定した報告がある(PMID:16232825)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	・通常の食品に含まれる量を適切に摂取すればおそらく安全であると思われる。大量に摂取した場合の影響については調べた文献中に見当たらない。	
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。	
医薬品との相互作用	調べた文献の中に見当たらない。	
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。	
AHPA クラス分類および警告	参考文献中に記載なし *米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)	
総合評価		
安全性	・ヒトに対する安全性については、調べた文献の中に信頼できる情報が見当たらない。	
有効性	(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ・ヒトに対する有効性については、調べた文献の中に信頼できる情報が見当たらない。	

Keyword

-

参考文献

1. (PMID:16232825) J Biosci Bioeng. 2000; 80(1): 98-104.



## No.517 ハトムギ(ヨクイニン/ヨクベイ)

基本情報		
名称	和名:ハトムギ(ヨクイニン/ヨクベイ) 英名:Coix seed 学名:Coix lacryma-jobi L. var. ma-yuen (ROMAN.) いね科[ジュズダマ属]	
概要	ハトムギは中国、インドシナ地方の原産で、日本には古くから渡来した食物である。種子は薏苡仁(ヨクイニン)と呼ばれ、漢方素材としての利用経験が長い。近年、ハトムギに抗腫瘍成分のコイクセノリドを含むことがわかり、注目されている。健康食品素材としてはお茶などに利用され、俗に、「滋養作用がある」、「美容に役立つ」などといわれている。ヒトでの有効性・安全性については信頼できるデータが見当たらない。また、同属植物であるジュズダマは、生薬のヨクイニンとして混用されているが、主要成分が異なり、注意する必要がある。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	種子、種子エキス、種子油は、「非医薬品」に区分される(30)。「既存添加物」:酵素分解した抽出物は保存料である。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	・成分は炭水化物52%、タンパク質18%(アミノ酸:グルタミン酸、ロイシン、チロシン、バリンなど)、脂肪7%のほか、コイクセノリド(coixenolide)など。根にはコイクソール(coixol)を含む。2種類のステロイドも分離されている。 ・ハトムギの薬用部分は種子[薏苡仁(ヨクイニン)]。9月~10月に果実を採取し、果皮と種皮を取り除き日干しする。煎液か粉末を服用する。中国、インドシナ地方原産。古くに渡来し、日本西南部の暖地で栽培される。花期は8~10月。	
分析法	-	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。	
試験管内・動物他での評価	・感作ヒツジ赤血球に対してアラビノガラクトンおよびこれを含む多糖類は抗補体活性を示す(24)。 ・ヨクイニンの水エキスをマウスに腹腔内投与すると、血糖値を低下させたという報告がある(24)。	
安全性		
危険情報	調べた文献の中に見当たらない。	
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。	

医薬品との相互作用	調べた文献の中に見当たらない。
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	<p>ジュズダマはクラス 2b(妊娠中に使用しない)(22)。</p> <p>* 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA) クラス 2b: 妊娠中に使用しない</p>
総合評価	
安全性	ヒトに対する安全性については信頼できる十分なデータは見当たらない。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <p>食品素材として利用する場合のヒトでの有効性については、信頼できる十分なデータは見当たらない。</p>
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</li> <li>2. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)</li> <li>3. (24) 漢方薬理学 南山堂 高木敬次郎ら 監修</li> </ol>	

No.713 バーベナ、バーベイン、クマツヅラ、バベンソウ(馬鞭草)

基本情報		
名称	和名:バーベナ、バーベイン、クマツヅラ、バベンソウ(馬鞭草) 英名:Verbena, Vervain 学名:Verbena officinalis クマツヅラ科[クマツヅラ属]	
概要	バーベナはクマツヅラ科の多年草である。キリスト磔刑の際に十字架の下から生えて出血を止めたとの言い伝えがあり、「十字架の薬草」「聖なる草」との別名がある。古代から世界各地で様々な病気に効く万能の民間薬として利用されてきたほか、神秘的な効果をもつ薬草と考えられており、予言や呪術の力を高める目的で、また媚薬としても用いられていた。中国漢方では利尿、発汗、解熱、通経作用などの目的で用いられる。俗に「のどによい」「消化によい」「傷によい」「リラックスする」などといわれている。ヒトでの有効性については、副鼻腔炎に対して有効性を示唆した報告がある。安全性については、多量に摂取すると昏迷や痙攣を起こすという報告がある。また、妊娠中には使用してはならない。その他、詳細については「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	全草は「非医薬品」に区分される(30)。米国では GRAS(一般的に安全とみなされた物質)認定。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	アジア、ヨーロッパ、北アフリカに分布。日本では本州から沖縄にかけて分布する。道端や荒地に自生する高さ 60-100cm の多年草で、花期は夏。茎は直立し、上方で分岐、全体に細かい毛がある。全草を採取し、水洗い後、日干しする。ハーブティーなどに利用されるレモンバーベナとは別属である。 イリド配糖体であるベルバスコシド(verbascoside)、ベルベナリン(verbenalin)、ベルベニン(verbenin)を含む。地上部にウルソール酸(ursolic acid)を含む。	
分析法	ウルソール酸が多波長検出器付高速液体クロマトグラフィー(HPLC)により、C18 カラムを用いて分離・分析された報告がある(PMID:12776531)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	・副鼻腔炎に対して有効性が示唆されている(64)。ゲンチアナ根、ヨーロッパアンエルダーフラフー、キバナノクリンザクラ花、スイバとの組み合わせは、経口摂取で急性および慢性の副鼻腔炎に効果があるという報告がある(64)(101)(102)(PMID:10483681)。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	・妊娠中の摂取は危険性が示唆されている(64)。バーベナは墮胎作用、分娩促進作用があるとされている(64)(103)。 ・参考文献中には授乳中の安全性については記載がない。 ・多量摂取するのは危険性が示唆されている(64)。成分ベルベナリンは中枢神経系の麻痺を起	

	<p>こし、昏迷や痙れんを起こすことがある(64)(103)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーベナ草への接触による即時性あるいは遅発性過敏症の報告がある(PMID:8565490)。</li> <li>・通常食品に含まれる量を適切に摂取すればおそらく安全であると思われる(64)。医療従事者の管理のもとでの経口摂取は安全性が示唆されている(64)。</li> </ul>
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。
医薬品との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論上、バーベナを多量に摂取すると高血圧の薬剤治療に相加的な影響を与える可能性がある(103)。また、高血圧や低血圧の人の血圧に影響を与える可能性がある(103)。</li> <li>・バーベナはビタミンKを含有するため、ワルファリンカリウムの作用を減弱させる可能性がある(PMID:10920504)。他のハーブやサプリメント、食品との相互作用、臨床検査に対する影響は知られていない(64)。</li> </ul>
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	<p>地上部はクラス 2b(22)。</p> <p>* 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA) クラス 2b: 妊娠中に使用しない</p>
総合評価	
安全性	<p>・ヒトに対する安全性については、多量に摂取すると昏迷や痙れんを起こすという報告がある。また、妊娠中には使用してはならない。</p>
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <p>・ヒトに対する有効性については、副鼻腔炎に対して有効性を示唆した報告がある。</p>
Keyword	副鼻腔炎
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</li> <li>2. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成 16 年 3 月 31 日 薬食発第 0331009 号 厚生労働省医薬食品局長)</li> <li>3. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース (日本語版)2004(第一出版刊行予定)</li> <li>4. (101) A Physician's Guide to Herbal Medicine. Terry C. Telger, transl. 3rd ed. Berlin, GER: Springer, 1998.</li> <li>5. (102) Phytomedicine 1994;1:177-81.</li> <li>6. (103) Herbal Medicine: A Guide for Healthcare Professionals. London, UK: The Pharmaceutical Press, 1996.</li> <li>7. (PMID:10483681) Wien Med Wochenschr. 1999;149(8-10):202-8.</li> <li>8. (PMID:12776531) Zhongguo Zhong Yao Za Zhi. 2002 Dec;27(12):916-8.</li> <li>9. (PMID:8565490) Contact Dermatitis. 1995;33(5):343-6.</li> <li>10. (PMID:10920504) Ann Ital Med Int. 2000;15(2):139-43.</li> </ol>	

No.728 バターバー、西洋フキ

基本情報		
名称	和名:バターバー、西洋フキ 英名:butterbur 学名:Petasites hybridus キク科[フキ属]	
概要	バターバーはヨーロッパ全域に分布する、高さ1mになる多年草である。淡桃紫色の花を大型の穂状花序中につける。地上部は夏に、根は春から秋に採取される。俗に「鼻づまり、花粉症によい」「片頭痛によい」「尿管の炎症によい」などといわれている。ヒトでの有効性については、ドイツのコミッション E モノグラフ(薬用植物評価委員会)では尿路の急性の痙攣痛に対する使用を承認している。また、片頭痛に対して有効性が示唆されている。安全性については毒性アルカロイドを含有するため、アルカロイドを除去していないものはおそらく危険と思われる。妊娠中・授乳中の摂取は避けたほうがよい。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	医薬品と非医薬品の区分なし。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	セスキテルペン化合物(ペタシンとイソペタシン)、セスキテルペンラクトン、揮発油、ペクチン、ピロリジンアルカロイド(特にセネシオン)を含み、単離したピロリジンアルカロイドは肝毒性を有する。根にはイヌリンが含まれる。	
分析法	酵素免疫測定法(EIA)により、葉に含まれるアルカロイドを測定した報告がある(PMID:8693043)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	・コミッション E モノグラフでは尿路の急性の痙攣痛に対する使用が承認されている(58)。
	脳・神経・感覚器	・片頭痛の予防に有効性が示唆されている。バターバーの成分を含む特定の製剤を 16 週間摂取したところ、片頭痛の頻度、強度、持続期間が軽減したという報告がある(PMID:11020030)(PMID:14752215)。また片頭痛に対するプラセボを対象とした無作為化二重盲検比較試験において、バターバー抽出物 75mg、1 日 2 回、4ヶ月間の摂取が有効との報告がある(PMID:15623680)。
	免疫・がん・炎症	・花粉症などのアレルギー性鼻炎に対して有効性が示唆されている。バターバーに含まれる成分ペタシンが、免疫メディエーターを抑制し、鼻炎の症状を緩和するという報告がある(PMID:11799030)(PMID:12188041)(PMID:12859442)。 ・アレルギー性鼻炎に対し、プラセボ、フェキソフェナジン(ヒスタミン H1 拮抗薬)とバターバー抽出物(総ペタシンとして 8mg、1 日 3 回摂取)の無作為化二重盲検比較試験において、バターバー抽出物の効果はフェキソフェナジンと同等に認められたとの報告がある(PMID:16114089)。花粉症に対するセチリジン(ヒスタミン H1 拮抗薬)との無作為化二重盲検比較試験において、効果はセチリジンと同等に認められ、鎮静等の副作用は少なかったという報告がある(PMID:11799030)。しかし一方では、プラセボとの無作為化二重盲検比較試験においてバターバー抽出物 50mg、1 日 2 回、2 週間の摂取では有意な効果は認めなかったという報告もある(PMID:15281472)。 ・20 人のアトピー患者を無作為二重盲検、二重ダミーのクロスオーバー試験に供したところ、ヒスタミン炎症反応、皮膚炎症反応においてバターバーはプラセボと比べて抑制効果はみられなかったという報告がある(PMID:14989395)。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。

肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。
安全性	
危険情報	<p>・適切に摂取した場合の安全性が示唆されている。バターバーの成分を含む特定の製剤は16週間まで安全に摂取できたという報告がある (PMID:11020030)(PMID:14752215)(PMID:15623680)。ピロリジンアルカロイドを含む製品は肝毒性の恐れがあるのでおそらく危険であると思われる(PMID:12927933)(102)。</p> <p>・経口摂取の副作用として、頭痛、目のかゆみ、下痢、喘息、痒み、胃腸の不調、疲労感、めまいなどがある(101) (PMID:12864764)。</p> <p>・バターバー抽出物の摂取により、げっぷ等の軽度の消化器症状が報告されている (PMID:15623680)。</p> <p>・妊娠中、授乳中の安全性に関しては、ピロリジンアルカロイドを含まない製剤においても信頼できるデータが十分でないため、摂取は避けるべきである。</p>
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。
医薬品との相互作用	<p>・ピロリジンアルカロイドを含むハーブ(コンフリー、フキトウ、フキタンポポ、ツワブキ)との併用は相加的な毒性より禁忌である(64)(PMID:12927933) J Hepatol. 39(3):437-46 (2003)。</p> <p>・CYP3A4を誘導するハーブやサプリメントおよび医薬品との併用は、バターバーに含まれるピロリジンアルカロイドの毒性代謝物への変換を増加させ、毒性を強めることがある (PMID:12927933) (PMID:15649625)。</p>
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および報告	<p>参考文献中に記載なし</p> <p>*米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)</p>
総合評価	
安全性	・ヒトに対する安全性については、毒性アルカロイドを含有するため、アルカロイドを除去していないものはおそらく危険と思われる。妊娠中・授乳中の摂取は避けたほうがよい。
有効性	<p>(注:下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <p>・ヒトに対する有効性については、ドイツのコミッション E モノグラフ(薬用植物評価委員会)では尿路の急性の痙れん痛に対する使用を承認している。片頭痛に対して有効性が示唆されている。</p>
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(102) Pharmazie 1995;50:83-98.</li> <li>(PMID:11799030) BMJ. 2002 Jan 19;324(7330):144-6.</li> <li>(PMID:12188041) Int Immunopharmacol. 2002 Jun;2(7):997-1006</li> <li>(PMID:12859442) Clin Exp Allergy. 2003 Jul;33(7):882-6.</li> <li>(PMID:14752215) Eur Neurol. 2004;51(2):89-97. Epub 2004 Jan 28.</li> <li>(PMID:12927933) J Hepatol. 2003 Sep;39(3):437-46.</li> <li>(PMID:12864764) Headache. 2003 Jan;43(1):76-8.</li> <li>(PMID:15649625) Toxicol Lett. 2005 Mar 15;155(3):411-20.</li> <li>(PMID:8693043) Planta Med. 1996 Jun;62(3):267-71.</li> <li>(PMID:15623680) Neurology. 2004 28;63(12):2240-4.</li> <li>(PMID:16114089) Phytother Res. 2005;19(6):530-7.</li> </ol>	

12. (PMID:15281472) *Ann Allergy Asthma Immunol.* 2004;93(1):56-60.
13. (PMID:12927933) *J Hepatol.* 39(3):437-46 (2003)
14. (PMID:15649625) *Toxicol Lett.* 155(3):411-20 (2005)
15. (PMID:11020030) *Int J Clin Pharmacol Ther* 2000;38:430-5.
16. (PMID:14989395) *Ann Allergy Asthma Immunol.* 2004 92(2):250-4
17. (58) *Monograph of therapeutical Guide to Herbal Medicine Complete German Commission*
18. (101) *Int J Clin Pharmacol Ther* 2000;38:430-5.

## No.724 バナジウム

基本情報		
名称	和名:バナジウム 英名:Vanadium 学名:-	
概要	バナジウムは、ヒトでの必須性が認められてはいないが、生体内で健康に役立つ作用があると考えられている超微量元素で種々の化学形態が存在する。多く含む食品としてマッシュルーム、エビやカニ、黒コショウ、パセリ、ディルなどがあり、飲料水にも微量含まれている場合がある。通常の食事からは6-18ug/日摂取し、その5%が体内に吸収されると見積もられている。俗に「脂肪の燃焼を促進する」、「血糖値を下げる」、「コレステロールを下げる」、「血圧を下げる」、「便秘を改善する」などといわれているが、ヒトでの有効性に関する十分な科学的実証は見当たらない。安全性については、適切に摂取すればおそらく安全と思われるが、過剰摂取は危険性が示唆されている。五酸化バナジウムは有毒であるとの報告がある。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	医薬品と非医薬品の区分なし。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	元素記号V、原子番号 23、原子量 50.94。バナジウムは種々の化学形態をとり、硫酸バナジウム(硫酸バナジル)、メタバナジン酸塩、オルトバナジン酸塩などがある。五酸化バナジウムは有毒であるとの報告がある。	
分析法	高周波誘導結合プラズマ質量分析(ICP-MS)により分析された報告がある(PMID:15612762)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	・メタバナジン酸ナトリウム 125mg/日あるいは硫酸バナジウム 100mg/日が糖尿病患者に対して用いられ、インスリン感受性が改善し、血糖値が低下したという報告がある(51)(PMID:8781301)(PMID:7769096)(PMID:8927042)(64)(PMID:8621019)(PMID:7593444)(PMID:11238540)。しかし高用量の長期摂取は安全でなく、これより低用量で効果が現れるか否かは不明(64)。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	・適切に摂取すればおそらく安全であると思われる(64)、通常の食品から摂取するバナジウムによる副作用は報告されていない。サプリメント摂取による副作用として、腹痛、軟便、吐き気、鼓腸など軽度の消化器症状が報告されている(PMID:8781301)(PMID:7769096)(PMID:8927042)(PMID:8621019)(PMID:7593444)(PMID:11238540)。その他の副作用として緑舌、疲労感、無気力、局所神経病変がみられたがバナジウム摂取との因果関係は明確でない(51)。 ・糖尿病患者が硫酸バナジウム約 100mg/日を 4 週間安全に使用できたという報告がある	



	<p>(51)(PMID:8621019)(PMID:7769096)(PMID:8781301)(PMID:11238540)。          ・高用量の摂取は危険性が示唆されている(64)。高用量の長期摂取により腎障害などの重篤な副作用が出る可能性がある(51)。22.5mgを5ヶ月摂取したところ、激しい腹痛と下痢が起きたとの報告がある(PMID:8046184)。          ・五酸化バナジウムについては有害性が示唆されており(103)、消化管障害、腎機能検査値、神経系への悪影響を起こす可能性がある(64)。          ・19歳以上の成人の一日上限摂取量はバナジウムとして1.8mgである(51)。          ・小児、妊娠中および授乳中の女性は上限値が設定できないため、食品由来以外のバナジウムは摂取しないこと(51)。          ・バナジウムが欠乏したヤギでは流産する率が高くなり、乳汁分泌が低下したという報告がある(51)(102)。          ・五酸化バナジウムに曝露される職業従事者に、気管支喘息(PMID:6978990)や非特異的な気道反応性の亢進(PMID:1795672)が報告されている。</p>
禁忌対象者	<p>・動物試験の結果、バナジウムは腎機能に悪影響を与える可能性があるため(51)、腎不全患者はサプリメント摂取を控えること。</p>
医薬品との相互作用	<p>・理論上、オルトバナジン酸ナトリウム摂取により、抗凝血薬の効果と副作用を増強させる可能性がある(64)(PMID:1576669)。          ・硫酸バナジル摂取により糖尿病治療に相加的効果が現れることがある(64)(PMID:8781301)(PMID:7769096)(PMID:8621019)。また、臨床検査で血糖値に影響を与える可能性が考えられる(64)(PMID:8781301)。          ・その他のハーブやサプリメント、食品との相互作用は知られていない(64)。</p>
動物他での毒性試験	<p>五酸化バナジウムの経口摂取におけるLD50(50%致死量)はマウスで5-23mg/kg、ラットで10mg/kgである(103)。</p>
AHPA クラス分類および勧告	<p>参考文献中に記載なし          * 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)</p>
<b>総合評価</b>	
安全性	<p>・ヒトに対する安全性については、通常の食品から適切に摂取すればおそらく安全と思われるが、サプリメント等の形態での過剰摂取は危険性が示唆されている。五酸化バナジウムは有毒であるとの報告がある。</p>
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)          ・ヒトに対する有効性については、メタバナジン酸ナトリウムと硫酸バナジウムが糖尿病に対して有効性を示唆したとの予備的なデータがある。</p>
Keyword	<p>糖尿病</p>
<b>参考文献</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(51) DIETARY REFERENCE INTAKES NATIONAL ACADEMY PRESS INSTITUTE OF MEDICINE</li> <li>(64) Pharmacist's Letter/Prescriber's Letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定))</li> <li>(102) 6th International Trace Element Symposium pp.17-27 (1989)</li> <li>(103) 財団法人 化学物質評価研究機構(<a href="http://www.cerij.or.jp/cerij/index_j4.shtml">http://www.cerij.or.jp/cerij/index_j4.shtml</a>)</li> <li>(PMID:8781301) Metabolism 45:1130-1135 (1996)</li> <li>(PMID:7769096) J Clin Invest 95:2501-2509 (1995)</li> <li>(PMID:8927042) Molec Cell Biochem 153:217-231 (1995)</li> <li>(PMID:8621019) Diabetes 45:659-66 (1996)</li> <li>(PMID:7593444) J Clin Endocrinol Metab 80:3311-20 (1995)</li> </ol>	

10. (PMID:11238540) J Clin Endocrinol Metab 86:1410-7 (2001)
11. (PMID:8046184) J Am Diet Assoc 94:891-4 (1994)
12. (PMID:15612762) J Agric Food Chem. 2004 Dec 29;52(26):7822-7.
13. (PMID:6978990) Med J Aust. 1982 Feb 20;1(4):183-4.
14. (PMID:1795672) Med Lav. 1991;82(3):270-5.
15. (PMID:1576669) Chem Pharm Bull (Tokyo) 40(1):174-6 (1992)

No.520 バナバ(オオバナサルスベリ)

基本情報		
名称	和名:バナバ(オオバナサルスベリ) 英名:Banaba 学名:Lagerstroemia speciosa L. (英) ミソハギ科[サルスベリ属]	
概要	バナバは、インドネシアやタイなどの熱帯、亜熱帯地域に分布する常緑高木で、フィリピンでは糖尿病を治療する民間薬として飲用されている。俗に、「血糖上昇を抑制する」「肥満を予防する」などといわれるが、ヒトでの有効性・安全性については、信頼できるデータが見当たらない。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	全木は「非医薬品」に区分される(30)。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	・コロソール酸(corosolic acid)を含み、カルシウム、マグネシウム、カリウム、亜鉛、アミノ酸などの元素が豊富に含まれている。 ・フィリピン・東南アジア等に分布。ミソハギ科の熱帯および亜熱帯製植物で、20~30cm 位の葉を着け薄紫色の花を咲かせる。乾燥後焙煎仕上げしたバナバの葉を煎じて飲用する。	
分析法	valoneaic acid dilactone がフोटダイオードアレイ検出器を装着した高速液体クロマトグラフィー(HPLC)により分析されている(PMID:12875243)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	予備的な臨床試験によると、コロソール酸を 1g 含有する標準抽出物は II 型糖尿病の人の血糖値を低下させる可能性がある(PMID:12787964)。この効果については、さらなる科学的根拠の蓄積が必要である(64)。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。	
試験管内・動物他での評価	・ラットを用いた実験では、バナバ葉抽出物は食後血糖上昇に対する抑制作用を認めなかった(101)。 ・抽出物は、糖尿病動物モデルで血糖値を低下させたという報告がある(PMID:12787964)(PMID:9063966)。 ・in vitro 試験により、成分エラギタンニンにはインスリン様作用をもつことが示唆されている(PMID:11859474)。また、インスリン受容体を活性化させることを示唆する報告もある(PMID:14501154)。 ・in vitro 試験によると、成分バロネン酸はアロプリノールと同程度かそれ以上のキサンチンオキシダーゼ阻害活性をもつことが示唆されている(PMID:15234783)。 ・糖尿病マウスで体重増加を抑制したという報告がある(PMID:10737232)。しかし、正常マウスおよびヒトではこの効果は試験されていない(64)。	
安全性		
危険情報	・経口摂取で安全性が示唆されている。抽出物は 15 日間の試験で安全に摂取できたという報告	

	がある(PMID:12787964)。長期摂取の安全性については、データが充分でない(64)。 ・妊娠中・授乳中の安全性についてはデータが充分でないので、使用は避ける(64)。 ・副作用は報告されていない(64)。
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。
医薬品との相互作用	・理論上、血糖低下作用のあるハーブやサプリメント、糖尿病治療薬との併用で、相加作用が起こると考えられる。臨床検査値においても血糖値に影響を与えることが考えられる(PMID:12787964)。 ・他の食品との相互作用は知られていない(64)。
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	参考文献中に記載なし *米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)
総合評価	
安全性	ヒトに対する安全性については信頼できる充分なデータは見当たらない。
有効性	(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ヒトに対する有効性については信頼できる充分なデータは見当たらない。
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)</li> <li>(64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定)</li> <li>(PMID:12875243)Yakugaku Zasshi. 2003 Jul;123(7):599-605.</li> <li>(PMID:12787964)J Ethnopharmacol. 2003 Jul;87(1):115-7.</li> <li>(PMID:9063966)Biosci Biotechnol Biochem. 1996 Feb;60(2):204-8.</li> <li>(PMID:11859474)Planta Med. 2002 Feb;68(2):173-5.</li> <li>(PMID:14501154)J Pharmacol Sci. 2003 Sep;93(1):69-73.</li> <li>(PMID:15234783)J Ethnopharmacol. 2004 Aug;93(2-3):391-5.</li> <li>(PMID:10737232)J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 1999 Dec;45(6):791-5.</li> <li>(101) YAKUGAKU ZASSHI 124(4):217-223; 2004.</li> </ol>	